

本校の地域連携・地域交流

富士河口湖町立大嵐小学校

地域を愛する心を育てる ～ふるさと学習を通して～

1. 目的と経緯

- ・地域を回ること、地域の人々や自然について学習する。
- ・講師を招聘しての学習会を実施し、地域の歴史や良さを学習する。
- ・毎年4月25日に行われる天神社祭典に「ふるさと学習の日」として全校で参加していた。コロナ禍のため、平成31年度を最後に参加できなかったが、今年度4年ぶりに参加することができた。



2. 内容

- ・祭典の前に富士河口湖町生涯学習課杉本悠樹先生による学習会が行われた。「大嵐」の名前の由来について(1)大きな嵐がきた、(2)大原(7つの村)と言って、大原七郷についての説明があった。また、「御神輿」は神様が乗っているの、地域を廻ることで、神様の力を地域に運んでいるというお話もあった。その後子どもたちは法被を着て神輿庫へ向かった。
- ・神輿庫での出発式後、全校児童が区役員や氏子と一緒に、足和田山の中腹にある大嵐天神社を参拝した。何人かの方が玉串(榊)をあげて、一同2礼2拍手1拝をした。
- ・その後、ふもとまで降りてから、神輿を担いで地区を練り歩いた。お賽銭用の大きな笹を高学年の2人が担いで歩いた。途中、何度か休憩し、地域の方とのふれあいの時間をもつことができた。また、保護者も神輿の補助や休憩所の運営などで、祭典に協力をした。未就学児も法被を着て参加していた。



3. 成果と課題

- ・4年ぶりの祭典ということで、地域一体となって参加しお祭りを盛り上げてくれた。
- ・子ども達は地域の方とのふれあいをもてる有意義な一日になった。また、大原七郷の中心であったという大嵐の歴史を知ることで、自分達が住んでいる地域への誇りをもつことができた。
- ・児童数や保護者の減少に伴い、神輿を担ぐことや準備が大変にはなってくる。しかし、この学習を通して地域や家族の人とのふれあいや絆を深めることができた。
- ・お神輿を友達と担ぎ、天神社のいわれを学び地域を知ること、ますますふるさとを愛せる人間になってほしいと願っているの、今後も継続していきたい。
- ・地域の方々に支えられていることを強く感じるとともに、大きな励みになった。